

【活動日誌277】特別解説ツアー実施中！

本日から本学の大学祭が開催されています。博物館では、展示室を公開するとともに、活動拠点である一号棟の特別解説ツアーを開催しています。

一号棟は明治時代に麻布区(現港区)に建てられた区役所庁舎を移築したもので、国の登録有形文化財(建造物)として認められています。特別解説ツアーでは本学出身の学芸員が、その見どころをお伝えします。

ツアーは一日3回、11:00・13:00・15:00に開催しています。各回10名様限定となっていますが、本日15:00からの回はまだご参加が可能です。展示室の公開は3日まで続きますが、特別解説ツアーは本日1日と明日2日のみの限定イベントとなっています。興味のある方はぜひご参加ください。

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #大学祭

■【イベント情報】特別解説ツアー＆特別開館を実施します(11月1・2・3日)

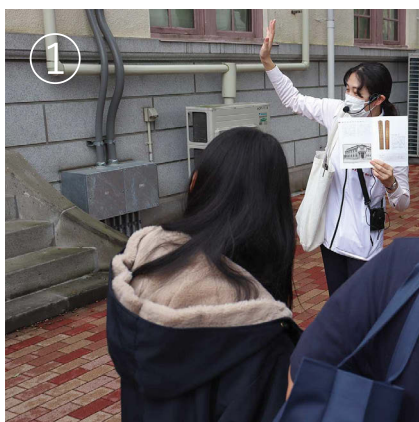
<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20251004-01.html/>

解説ツアーを含む、大学祭期間中の博物館の対応はこちら

■第8回(令和7年度) 医獣祭

<https://www.nvlu.ac.jp/campuslife/010.html/>

大学祭の詳細はこちら



① 解説の様子：普段は見逃しがちな裏側の階段についても見どころを解説をいたします

② 解説の様子：一号棟の正面には明治時代から現在にいたるまでの歴史が詰まっています

【活動日誌278】野生生物研究会の展示

先日、本学のサークル野生生物研究会に博物館の標本を貸し出して、本学の大学祭で展示するための準備の様子についてお知らせしました。本日はとうとう大学祭当日ということで、完成した展示の様子をご紹介します。

以前の投稿の写真を見て気づいた方もいらしたかもしれませんが、博物館から貸し出した標本はムササビでした(写真で紹介していた特徴的な骨は針状軟骨というムササビが飛ぶときに使う皮膜を広げるのに用いられる骨)。野生生物研究会が高尾山でムササビの観察を行っているため、標本を展示したいというご相談を受けて、今回の標本の貸し出しと展示へとつながることとなりました。

短い準備期間しかなかったにもかかわらず、学生さんたちは毎日のように夕方から準備を進めて、とても素敵な展示物となりました。骨を並べた台は学生さんたちのアイディアで作った手作りですが、色も形もムササビの特徴をうまく表現しているため、骨を並べただけの状態でもムササビが空を飛ぶ様子が想像できるのではないのでしょうか。

こちらは大学祭の間3日間だけの限定展示となりますので、ぜひこの機にムササビを見に大学祭にお越しください。博物館の特別開館も実施中です。

(学芸員 廣瀬)

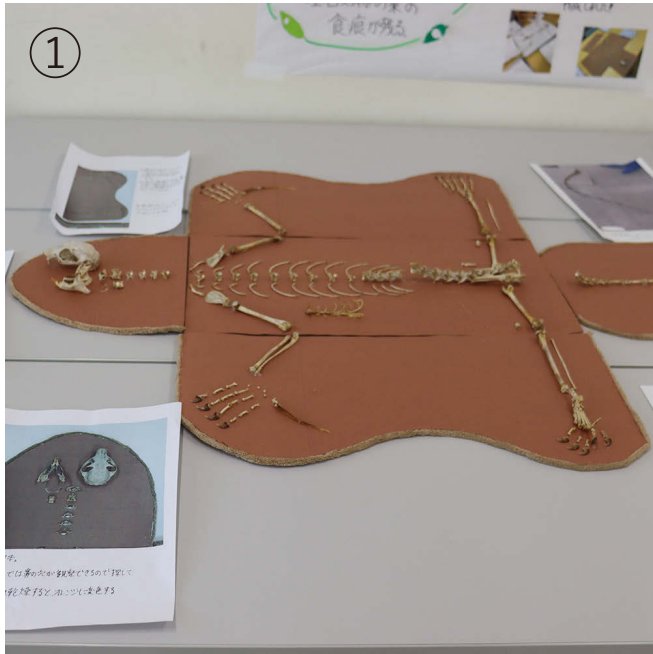
#ムササビ #骨格標本 #日本獣医生命科学大学 #博物館 #大学祭

■野生生物研究会Instagram

https://www.instagram.com/nvlu_yasei_2025

■【イベント情報】特別解説ツアー＆特別開館を実施します(11月1・2・3日)

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20251004-01.html/>



- ① 実際に展示されているムササビの骨格標本。ムササビらしくなりました。
- ② 今年は大学祭で博物館が関わっている展示が野生生物研究会(B棟414)と3日のホームカミングデーの特別講演(B棟511)の2か所にも。本日の一号棟特別解説ツアーもまだ空きがあります。
- ③ 野生生物研究会の展示室ではドングリの生態展示も。子どもたちに大人気です。

【活動日誌279】大学祭にあわせて博物館を開館しました

11月1日から3日にかけて本学の大学祭が開催され、当館も特別開館を実施しました。

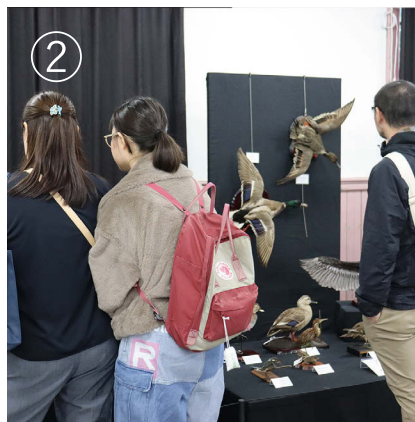
大学祭にあわせた開館は毎年恒例となっていますが、今年は「教育・文化週間」への取り組みとして文化財である一号棟の特別解説ツアーを実施しました。ツアーは1・2日の2日間のみ実施し、1日3回、1回あたり10名限定としていましたが、合計で44名の方にご参加いただくことができました。参加された皆様には、一号棟の歴史や普段は見逃しがちな細かな見どころを紹介しました。

展示室は3日間のすべての日程で公開し、合計で1,470名の方にご来館いただきました。この人数は今までの大学祭にあわせた開館でも最大と記憶しています。たくさんの方にご来館いただき、大変嬉しく思います。

詳細なレポートは後日博物館公式サイト内の「博物館ニュース」にて掲載予定です。どうぞお楽しみに！

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #大学祭



- ① 説一号棟入口での案内の様子。大学祭では毎年一号棟の入口で受付を行っています。
- ② 自然系展示室の様子。本当に多くの方に見学に来ていただきました。
- ③ 大学祭は博物館の特別開館の中でも特にお子様の来館者が多くいらっしゃいます。クイズと塗り絵は大人気でした
- ④ お子さんがチャレンジしてくれたクイズとぬりえの回答用紙。とても細かいところまでじっくり観察して塗り絵をやってくれました。

【活動日誌280】動物形態学実習で博物館を活用していただきました

当館が本学で学芸員課程を学ぶ学生たちの学習の場としての役割を担っていることは度々お伝えしていますが、学芸員課程ではない授業や実習においても当館の資料や展示室が活用されています。先日は獣医保健看護学科1年生の約半数にあたる50名ほどの学生が、動物形態学実習の一環として自然系展示室を活用しました。

動物形態学実習は、事前に講義で学んだ動物の骨格と臓器の構造について、標本を観察することを通じて理解を深めることをねらいとしています。博物館を活用した今回の実習では、学生たちは自然系展示室に展示されている哺乳類の剥製を観察し、哺乳類の歩行様式3タイプ(蹠行性・趾行性・蹄行性)の違いを学びました。また、現在自然系展示室で開催しているミニ展示「日獣大アシカ展 ～なぞの標本と日本の鰭脚類～」を見学し、感想をレポートとして提出しました。

当館は大学の附属博物館であり、このような形で展示室を活用する場合は学生の学習を優先させていただきます。そのため、授業や実習に日程にあわせて博物館を臨時休館する場合や開館時間を変更する場合がございます(近日中だと11月20日に同じ実習のために残りの50名が見学に来ることが決まっており、当日の開館時間に変更となっています)。臨時休館や開館時間の変更は公開しているカレンダーにて随時更新しておりますので、ご来館の前にご確認くださいませようお願いいたします。

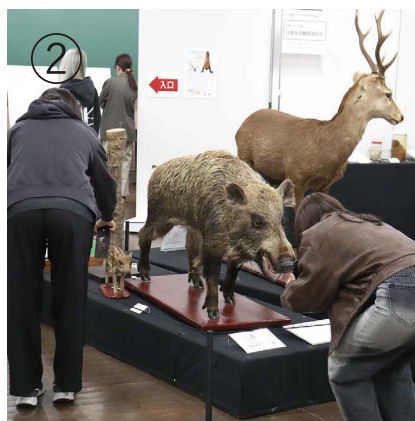
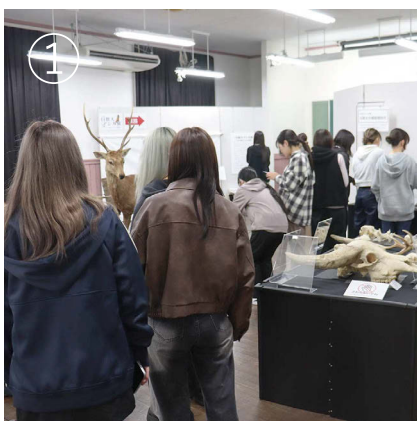
(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityi.../004/access/index.html/>

カレンダーはこちらのページからご確認くださいませ



- ① 展示室に集合した学生たち
- ② 学習の参考にするために剥製の写真をたくさん撮影していました

【活動日誌281】中学生の団体見学を受け入れました

当館では、学芸員による解説付きの団体見学を受け入れています。先日は大学見学にいらっしゃった足立学園中学校の皆様が博物館を見学されました。

今回は大学見学の一環ということで博物館を見て回る時間が限られていたため、一号棟の簡単な紹介に加えて、自然系展示室と定期交換展示室のミニ展示「長次郎の再出発」の見どころを30分ほどご案内しました。

自然系展示室の展示内容にはとても興味を持ってくださり、みなさん最近ニュースで良く取り上げられるツキノワグマの体が思ったより小さいことに驚いていました。また剥製をどうやって収集したのか、どうやって作るのかについて、とても熱心に質問してくれました。展示室には一部、本学の学生が作成した剥製も含まれていることを紹介すると、とても興味を持ってくださったようです。

中学校・高校の先生方で、今回のように大学見学とあわせて博物館の見学をご希望いただく際には、本学入試課(kouhou@nvl.u.ac.jp)までメールにてお問い合わせください。

(学芸員 廣瀬)

日本獣医生命科学大学 # 博物館 # 学校見学 # 団体見学



- ① 一号棟の紹介の様子。ガラス越しに見た外の景色がガラスによって異なることにみなさん驚いていました。
- ② 自然系展示室での解説の様子
- ③ ミニ展示「長次郎の再出発」の解説の様子。展示しているキリン「長次郎」の頭蓋骨を熱心に観察していました。

【活動日誌282】ヒクイナをご提供いただきました

当館では、以前もご紹介したように、特に日本の里山で暮らす野生動物を自然展示室のメインテーマとしていることもあり、収集に力を入れています。

今回、一般の方からヒクイナの死亡個体を提供していただくこととなりました。ヒクイナは湿地や水田などに主に生息するクイナ科の鳥類で、全国的には個体数が減少傾向にあります。こちらのヒクイナは、寄贈者の方が犬の散歩中に道端で死んでいるのを発見した個体とのことです。

野鳥の死体をご提供いただく場合、法律や衛生面での注意が必要です。鳥獣保護管理法第2条第8項において、狩猟鳥獣として指定されたもの以外の鳥獣の狩猟は禁じられています。ヒクイナは狩猟鳥獣ではありません。今回の個体は外傷はまったく見られませんでしたでしたが口内に血が確認されましたため、おそらくバードストライクによる死亡個体ではないかと考えられました。

また、冬季に野鳥の死体と遭遇した場合は高病原性鳥インフルエンザの可能性を考慮すべきですが、こちらは9月に発見されており、またヒクイナは環境省の「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」における高病原性鳥インフルエンザの検査優先種ではないことから、衛生上も問題はないと判断し、寄贈をお願いさせていただきました。

当館では、クイナ科の標本を保有していませんでしたので、初の標本となりました。こちらの標本については、今年度中に剥製標本を制作し、自然系展示室での常設展示にて近々みなさんにお目見えする予定です。

(学芸員 廣瀬)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #鳥類 #ヒクイナ



- ① 寄贈いただいたヒクイナ全身
- ② 外傷や外部寄生虫などがいないかをチェックする様子。特に異常は確認されませんでした。